



# 根岸だより

平成30年7月18日  
第32-41号  
台東区立根岸小学校  
校長 小西 祐一  
TEL03-3876-2411~2

## 「感謝の心」は世界を一つにする

校長 小西 祐一

先日、ロシアで行われたサッカーワールドカップでは、勝敗や試合の内容もさることながら、試合終了後に行われる日本人サポーターによるスタンドのごみ拾いが話題になりました。イギリスの公共放送「BBC」は、「日本人のファンは試合後にみんなで掃除を始め、一列ずつ、一席ずつ、自ら持ち込んだゴミ袋を使って丁寧にゴミ拾いをした。サムライブルーのサポーターは、一度たりともこのマナーを忘れたことがない。」と賞賛する等、テレビや新聞、インターネット上で様々に伝えられていました。また、サポーターだけでなく、日本選手のマナーについても話題になりました。

日本チームにとって最後の試合となったベルギー戦は、終了直前に相手に決勝ゴールを決められるという極めて残念な結果となりました。この大会のために全てをかけてきたといっても過言ではない選手たちにとって、この敗戦は受け止め難い悔しいものでありました。そんな試合をした後なので、日本チームのロッカールームはさぞ荒れているだろうと思われたのですが、彼らが去った後のロッカールームはきれいに整頓され、ごみ一つ落ちていない状態でした。また、それだけではなく、そこにはロシア語で書かれた「ありがとう」のメッセージと折鶴が置かれていました。

このことは、世界中で話題となり多くの人々に驚きと感動を呼びました。同じ日本人として誇りに思えるエピソードですが、この行動が世界中の人々の心を打ったのはなぜなのでしょう。日本選手とそのサポーターの何が世界の人々の心をとらえたのでしょうか。それは、「感謝の心」だと思います。どんなときでも誰に対しても感謝の心を持ち、それを具体的な行動として表すことの素晴らしさに人々は感動したのだと思います。

「清掃する人がいるのだからスタンドにごみを散らかしても構わない」ではなく、また、「一流選手なのだから許される」でもなく、「今、自分がここにこうしてられるのは、多くの（全ての）人々のおかげなのだ」という考え方や、その思いから自然に表れた行動には、その背景に、長い年月をかけて受け継がれてきた日本の精神性があるのだと思います。しかし、今回のことで私が特に印象に残ったのは、「感謝の心」は世界中の人々の心を一つにするということです。スタンドのごみ拾いは、今や様々な国の人たちの間で行われるようになりました。どんなに文化や習慣や考え方が異なっても、「感謝の心」は最も価値の高いものとして世界中の人が響き合い、それを行動に表すことでその素晴らしさを共感することができた。私は、そのことが何より嬉しく感じられました。社会が多様化、二極化し、互いの主張がぶつかり合い、考え方や価値観が次々と移り変わっていったとしても、人は必ず分かり合うことができる。その鍵を握るのが「感謝の心」である。――敵・味方を超えて共にスタンドをきれいにするサポーターの姿を見て、私はそう思いました。

### ■ こどもクラブ開設のお知らせ ■

この度、台東区教育委員会放課後対策課より、「根岸こどもクラブ」(仮称)が開設されることになった旨の連絡がありました。場所は根岸公園横の敷地で「根岸畑」と呼んでいる敷地と根岸幼稚園の農園の一部を使って建物を建て、平成31年4月からのスタートを目指します。つきましては、今年の秋から工事が始まりますが、教育活動に影響を及ぼすことは特にないとのことです。

詳細につきましては、同課より改めて通知等があります。また、この件についてのお問い合わせは以下のとおりです。

＜お問い合わせ＞ 台東区教育委員会児童保育課放課後対策担当 (電話)03-5246-1235

